

ふくい経済トピックス（行動編）

総務省が平成 23 年 10 月に実施した社会生活基本調査の結果がこのほど発表されました。

この調査は 5 年毎に行われ、過去 1 年間の旅行や趣味、スポーツ、学習等の生活行動を行った人の割合や時間帯別に睡眠や仕事、買い物、趣味などの生活時間の使い方に関する全国、都道府県別のデータが紹介されています。

そこで、今回は、消費の主役である「女性」の買い物や趣味に関する時間帯別の行動の変化について紹介してまいります。

福井県は、「共働き率日本一」であることは皆さんもご存じだと思いますが、過去の同調査結果と比較すると「仕事」の割合は全体的に低下しています。

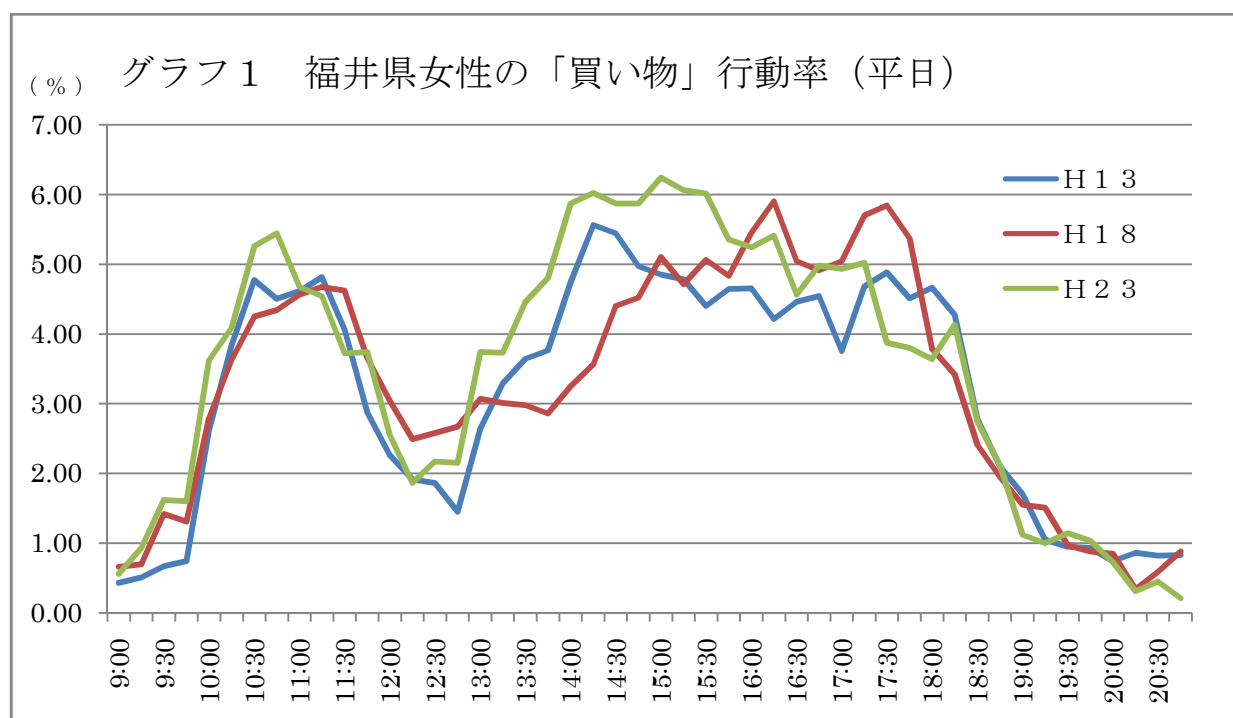
これは、団塊世代が定年を迎えるなど高齢化が進んだこと、リーマンショックなどの経済変動により雇用形態が多様化しパートタイム労働者が増加したことが理由として考えられます。

このようなことを背景として、午前 9 時から午後 9 時までの買い物行動の変化を見てみましょう。

〈買い物は日曜から平日午後に〉

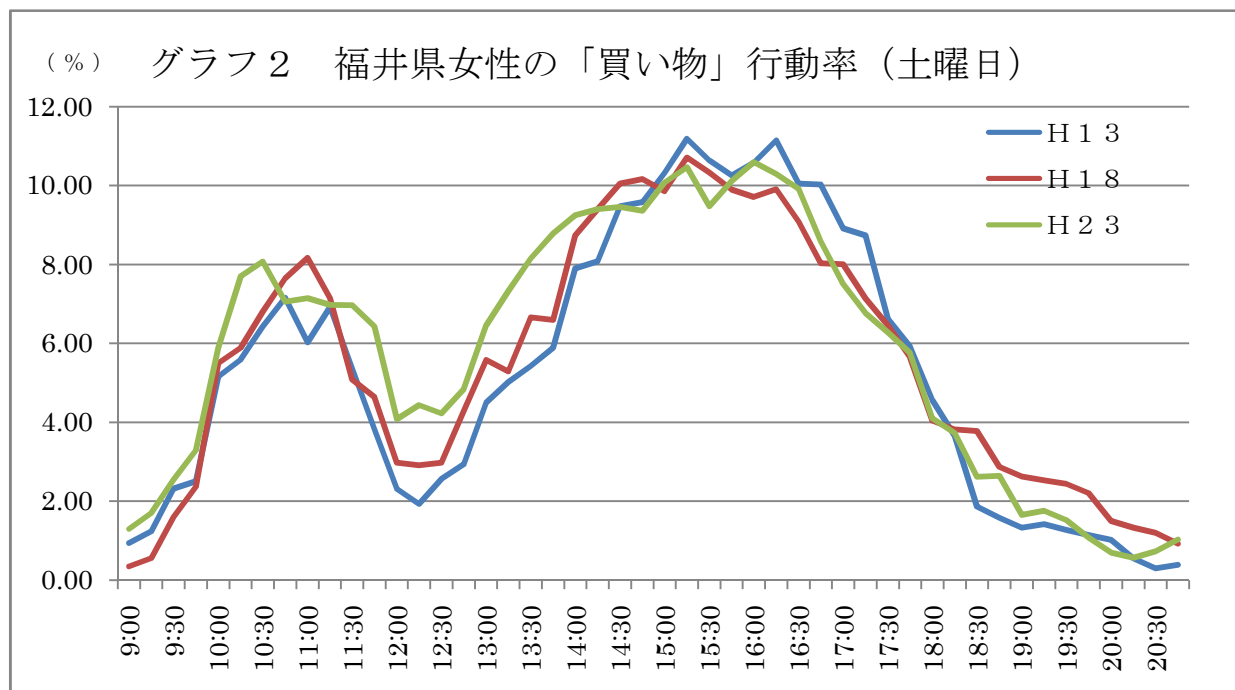
福井県の女性の時間帯別行動の中で、「買い物」行動の割合について、平日、土曜日、日曜日に分け、平成 13 年、18 年、23 年を比較しました。

平日（グラフ 1）の変化を見ると、午後の買物行動の山が少し高くなり、ピークも 2 時～4 時と早くなっています。

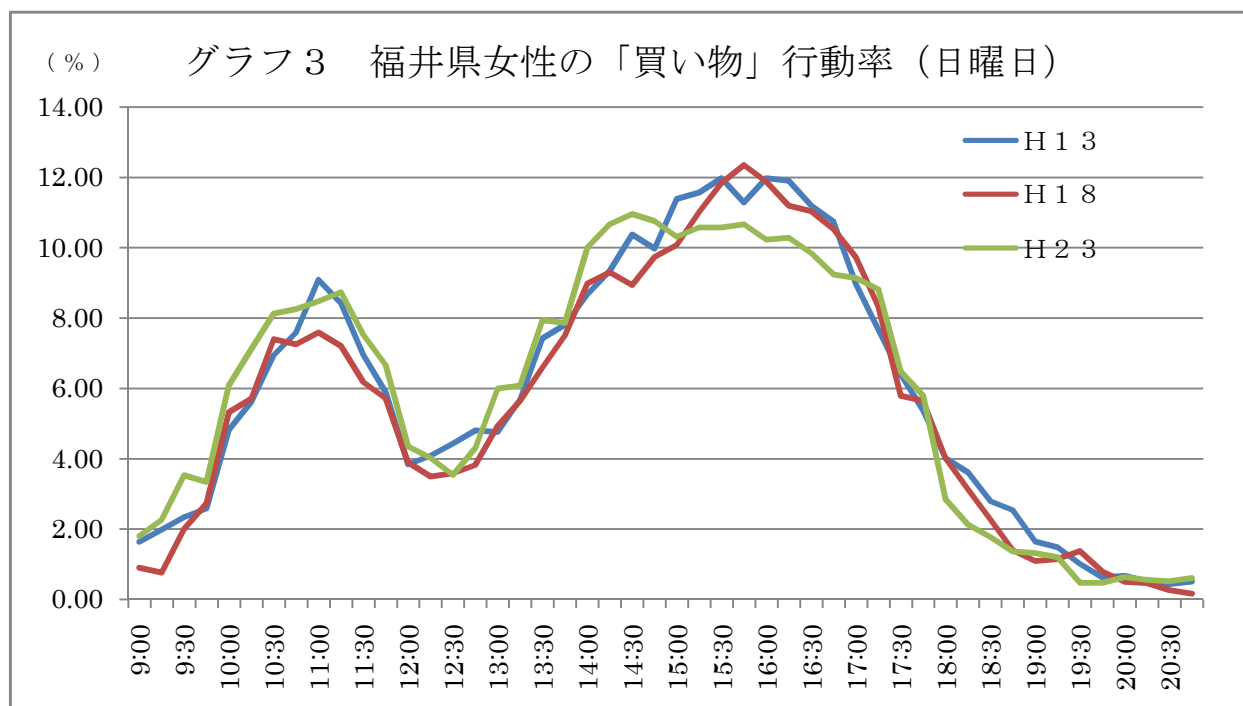


「パート帰りに買い物」から「平日の休み（交替休み）に買い物」といった動きに変化していることがわかります。

また、土曜日（グラフ 2）では、午前中のピークが 10 時半と少し早くなるとともに、「買い物を兼ね昼食を外食で」という動きが進んでいるのか昼食時間の買い物が増えています。



一方、日曜日（グラフ 3）は、大きな変化が見られませんが、平日と同様に午後のピークが 2 時前後に早くなるとともに、平日に買い物を済ませることが増えた分、そのピークは低くなっています。



福井県の10～74歳の女性人口は約30万人ですので、10%の行動率となればその時間に3万人が「買い物」をしているということになります。

なお、この調査では「買い物」に使った時間も調べており、福井県女性の平均は1日当たり31分となり、平成18年に比べ2分長く、特に、「45歳以上」で長くなる傾向にあります。

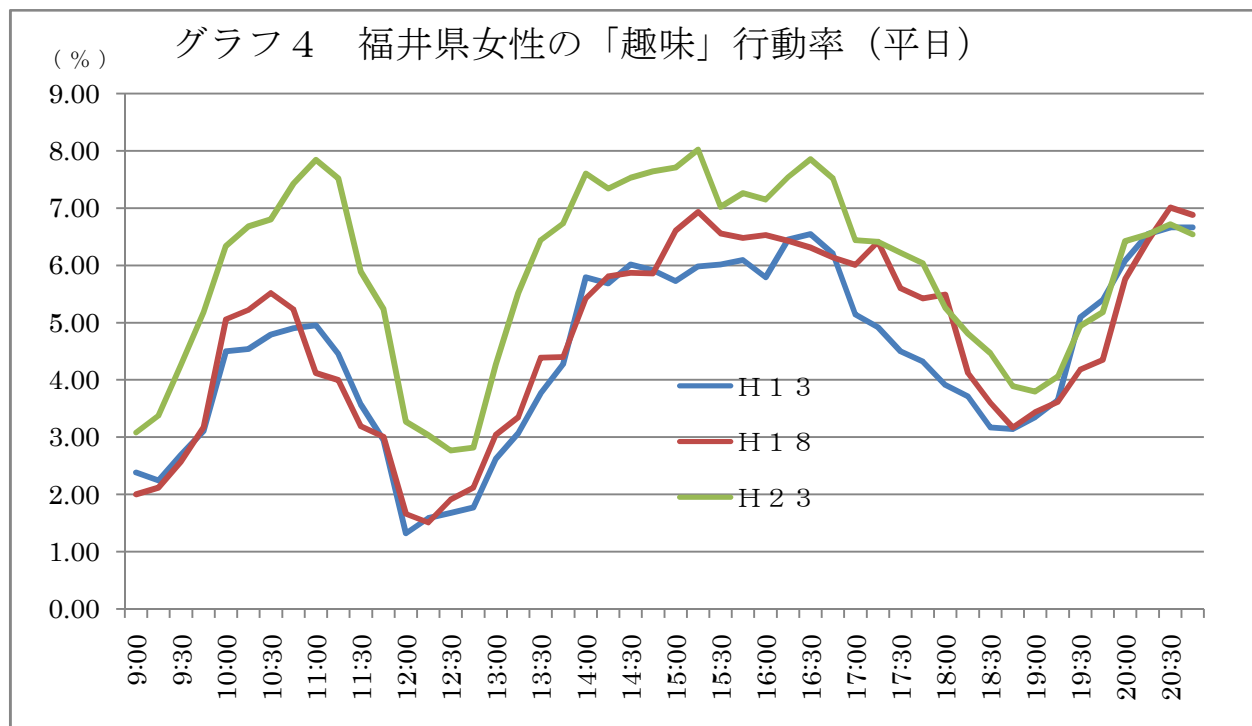
〈趣味の活動は活発に〉

また、この調査では、趣味やスポーツなどに使っている時間についても調査しています。

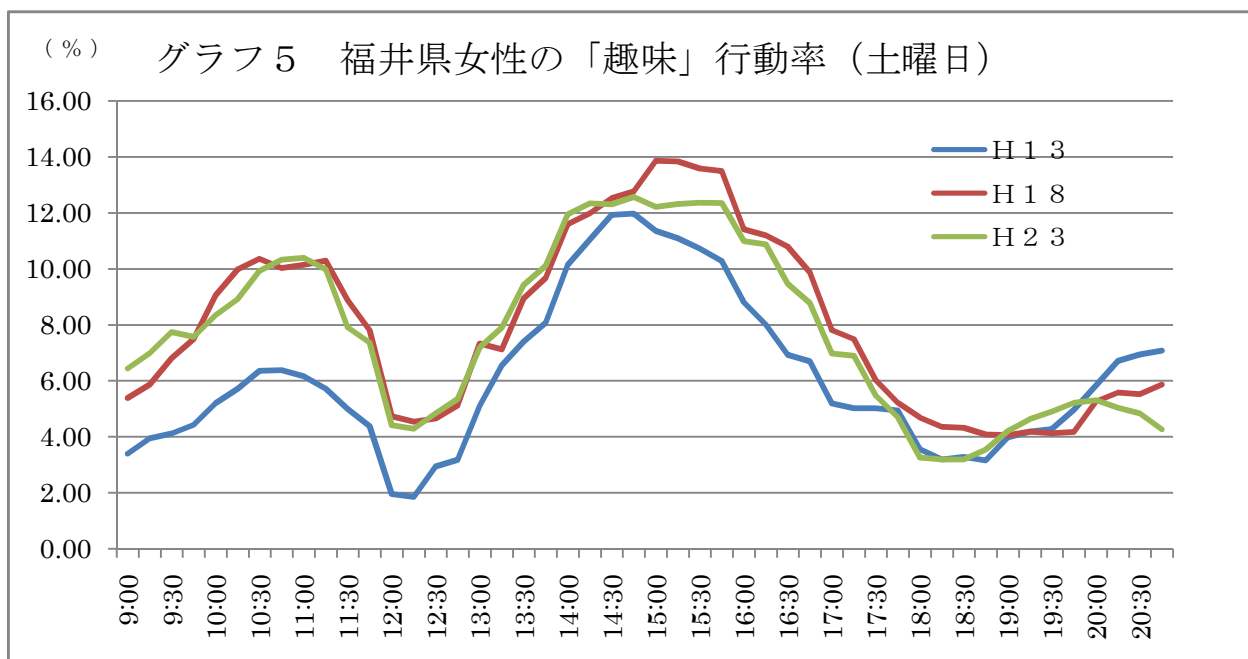
「学習・自己啓発・訓練」、「趣味・娯楽」、「スポーツ」といった能動的に取り組む「趣味」の行動率を時間帯別に合計してみました。こちらも、平日、土曜日、日曜日に分け、平成13年、18年、23年を比較しました。

平日（グラフ4）の変化を見ると、この5年で「趣味」のための行動が大幅に増えています。

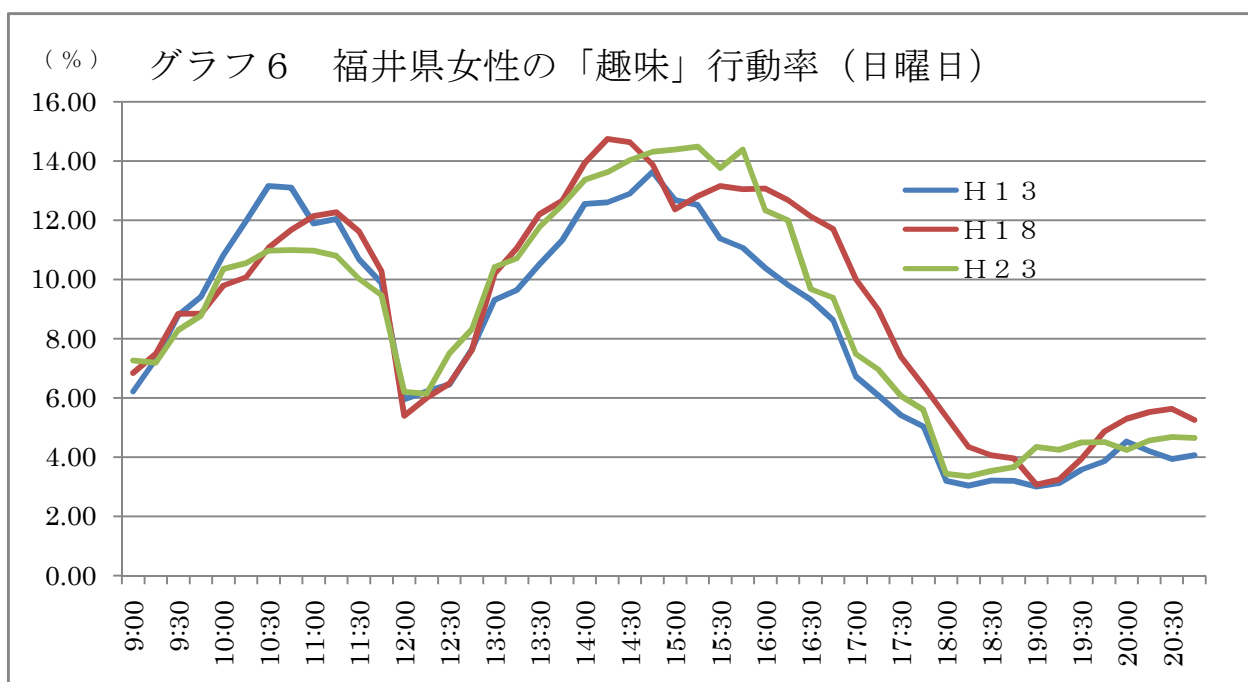
先程紹介した「定年」や「パートタイム化」だけでなく、カルチャースクールやスポーツジムの増加など活動の場の拡大も大きな要因と考えられます。



また、土曜日（グラフ5）では、平成18年と似たような形状になっていますが、特に夜8時以降の行動が減少しています。これは、平日の趣味行動が増加した反動かも知れません。



一方、日曜日（グラフ6）は、午前中の「買い物」行動が増えたせいか、以前より「趣味」行動が減少し、その分午後のピークが2～4時と長くなっています。



このように「趣味」等の活動は活発化していますが、家の中での「くつろぎ」の時間もまだまだ長く、自由時間をビジネスチャンスにつなげる新たな「提案」が求められているのではないのでしょうか。

なお、福井県民の生活行動（学習、ボランティア活動、スポーツ、趣味、旅行）の特徴については、福井県のホームページ（平成23年社会生活基本調査結果）で紹介していますので、そちらをご参照ください。

（福井商工会議所所報 11月号掲載）